

令和4年2月1日 総合政策委員会 開催状況

開催年月日 令和4年2月1日

質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員

担当部課 総合政策部政策局参事

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 まん延防止等重点措置に関する報告について</p> <p>(一) 感染急拡大の要因と対策の効果検証について</p> <p>ただいまの報告について、感染対策の観点から数点お伺いします。日本のコロナ対策は科学的根拠に欠けていると以前から指摘されてきました。デルタ株からオミクロン株に置き換わる中、ただいまの報告では感染防止対策は飲食店、イベント中心等のこれまでの枠内にとどまり、逆に緩和されている面もあります。ここまでの急拡大に至った要因と対策の効果についてどうお考えかお聞きします。どのようなことが根拠とされ、どう評価したのか。どう改善すればいいのかという観点はどこに反映されているのか。この感染拡大時に至ってからの効果をどう考えるのかも併せてお伺いします。</p> <p>(二) 警戒ステージ見直しによる影響について</p> <p>昨年の警戒ステージ見直しで、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言発出要請の判断にあたっては、病床使用率等を移行目標とするとされ、新規感染者数は判断指標から外されました。私どもは警戒ステージの見直しにあたって、病床使用率だけでは感染状況等の十分な分析や評価が客観的にできるのか疑問であることを表明し、見直しを求めてきました。実際には、全道で3千人に迫る新規感染者数が連日明らかになっています。また、病床使用率は1月30日時点で26.9%とのことですが、実際には新規感染者数の爆発的増加で、社会機能が麻痺しつつある状況となっています。警戒ステージ見直し等により判断指標から外された新規感染者数ですが、実際にはとても重要なファクターであり、警戒ステージ見直しによりさらに対応が遅れる要因になったのではないかと。道の見解を伺います。</p>	<p>【石井政策局参事】</p> <p>感染拡大への対応等についてではありますが、オミクロン株は、デルタ株に比べて、重症化リスクが低い可能性が示唆されております一方、感染力が強く、感染拡大のスピードが極めて速いとされておりまして、道内でも、こうした特性をもつオミクロン株への置き換わりが進み、会食など様々な場面を通じ、急速に感染者が増加しているところでございます。</p> <p>国の基本的対処方針におきましては、オミクロン株においても、感染リスクが高く、感染拡大の主な起点となっている場面への効果的な対策の徹底が必要とされておりまして、道としては、こうした専門家の知見等を踏まえ、まん延防止等重点措置のもと、混雑している場所などへの外出・移動を控えることに加え、飲食店の時短を要請するなどの措置を講じ、感染リスクの高い場面の回避に向けて更なる感染防止行動の徹底を図ってまいりたいと考えてございます。</p> <p>【鞠子政策局参事】</p> <p>レベル分類の運用についてでございますが、道では、医療のひっ迫の状況に重点を置きながら、地域の実情に応じ、機動的に対策を講じていくという、専門家の知見を踏まえ、レベル分類を導入したところであり、レベル0及び1については、先行指標となる新規感染者数に着目するとともに、レベル2については、病床使用率に加え、新規感染者数、療養者数の3つの指標を設定して、運用を行ってまいりました。</p> <p>1月4日、本道でオミクロン株の感染が確認されて以降、急速な感染拡大への警戒を高め、毎週、対策本部を開催して新規感染者数や療養者数、さらには病床の使用率等を慎重にモニタリングしながら、オミクロン株の特性を踏まえて、陽性となった方への対応に取り組むとともに、1月21日、有識者等のご意見も踏まえ、レベル2へ移行し、まん延防止等重点措置の国への要請を行ったところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(三) 全国知事会での発言について</p> <p>まん延防止等重点措置の効力について伺いますが、1月28日に行われた全国知事会「新型コロナウイルス緊急対策本部」において、愛媛県の中村時広知事は「感染は学校、保育園などが中心。時短要請のみで効果を得ることは非常に難しい」と指摘しています。また、長崎幸太郎山梨県知事も「飲食店に対する営業規制しかツールがないので使い物にならない」と語っています。このほかにも、政府の対策に対し、疑問を示す知事が相次いでいますが、鈴木知事はこの会議でどう発言したのか。他県知事同様に疑問の声をあげたのかお伺いいたします。</p> <p>(四) レベル分類の見直しについて</p> <p>医療のみならず、保健所の体制逼迫により、積極的疫学調査など従前行われてきたことが行われなくなっています。このこと自体がこれまでの対策の不十分さの表れとして、問題点を明らかにすることが必要ですが、警戒ステージ見直しにより、感染爆発に歯止めがかからなくなつてからまん延防止等重点措置を要請したことは否めませんし、鈴木知事も道対策本部も、まん延防止等重点措置で十分と認識されているのでしょうか。他県知事のように国の施策について疑問を示さず、国の施策をただ焼き直したものに過ぎない、そういう姿勢では道民の命と暮らしは守れません。オミクロン株の拡大というレベル分類の前提が崩れた事態においては、レベル分類基準の見直しも含めて検討を行うべきではないでしょうか。見解を伺います。</p> <p>【再質】</p> <p>治療が必要な方を確実に医療へつなげられるようにとのご答弁ですが、本当に現状はいま非常に混乱を極めていますし、そこに至らないような対策が大事と考えます。感染症対策の重点は、遅れているワクチン3回目接種の加速化、いつでもどこでも何度でも無料で受けられる検査の拡大と、そのための体制を整えること、それが重要だと考えますが、保健福祉の分野とおっしゃるかもしれませんが、医療や学校、経済その他も含めて対策本部全体での認識と推進に引き続きご尽力いただきたいと思ひます。</p> <p>同時に、先ほど紹介しました全国知事会の中では、奈良県の荒井正吾知事が「効果があったかどうかの検証が急がれる」このように国に分析を求めています。他県の知事が疑問を呈しているように、まん延防止等重点措置の感染拡大防止への効果についても、この北海道においてもしっかり検証されて、質すべきところは国にしっかり提言もしていただきたいと考えますが、いかが伺います。</p>	<p>【尾崎政策局参事】</p> <p>全国知事会における対応についてでございますが、このたびの全国知事会は、オミクロン株による感染が急速に広がり、全国各地で過去最多の新規感染者数が確認されている状況を踏まえ、国への緊急提言をとりまとめるため、開催されたところでございます。</p> <p>知事からは、この間の国における抗原定性検査の優先的な取扱いや、濃厚接触者の待機期間の短縮などの対応の変更を踏まえ、国として、早急に「新型コロナウイルス感染症対策分科会」を開催し、オミクロン株の特性や、それを踏まえた対応の方針をとりまとめ、基本的対処方針に反映すべきとの発言を行ったところでございます。</p> <p>【天野政策局次長】</p> <p>今後の対応についてでございますが、道では、昨年の感染拡大の経験を踏まえ、病床のさらなる確保など、医療や療養体制の充実・強化を進めながら、日々、積み重ねられる科学的知見に基づきまして、これまで、感染状況に加え、保健や医療の提供体制への負荷の状況等をモニタリングし、レベルの移行などの対応を行ってきたところでございます。引き続き、新たな知見等を踏まえて、適切に対応してまいります。</p> <p>また、急速に増加する新規感染者数等を踏まえ、治療が必要な方を確実にかつ適切に医療へつなげられるよう、重症化リスクの高い方への確実な健康観察、それと医療提供、これを重点的に進めますとともに、2月20日までの間、まん延防止等重点措置の下、道民、事業者の皆様のご理解とご協力をいただきながら、感染防止行動の徹底を図ってまいります。</p> <p>【天野政策局次長】</p> <p>今後の対応についてでございますが、道内における新規感染者数が増加する中、まずはこれ以上の感染拡大を抑えていくことが重要と認識してございます。</p> <p>道といたしましては、オミクロン株の特性を踏まえて、適切に対応できるよう、引き続き、国はもとより、市町村や関係団体の皆様と連携を図りながら、しっかりと取り組んでまいります。</p>